

# 『海外の旅大工職人さん 日本研修』取材レポート

海外と日本の職人（技術・ノウハウ）交流を目的として開催している、地球の会主催「海外旅大工職人さん 日本研修」。

昨年末より約3か月間研修を受けられたジーモンさん（石橋工務店様受け入れ）と、マイケルさん（安成工務店様受け入れ）。お二方に本研修についてお話をうかがいましたので紹介します。

## ■旅大工職人PROFILE No.01■

ジーモン ポッペ  
氏名： Simon Pöppeさん  
国籍： ドイツ  
年齢： 28歳  
性別： 男性

<受け入れ工務店>  
長崎 (株)石橋工務店



今回どのような目的で研修に参加されましたか？

地球の会のホームページを拝見し、日本の一般建築の大工仕事を体験したいと思い参加しました。



実際に研修を受けられてみていかがでしたか？

日本建築の種類の多さがとても印象的でしたね。仕事の仕方や日本文化など、皆さんから新しいことをたくさん学ぶことができ、とても参考になりました。



現場での仕事で困ったことはありませんでしたか？

作業の説明を聞いていて、どうしても分からないことがありました。ただ、柱に番号や平仮名が書いてあるので、どの列に置いたらよいか分かり、本当に助かりました。



今回研修を受け入れてくださった石橋工務店様へメッセージをお願いします。

初日から信頼できるユーモアにあふれた仕事仲間に出会え、とても良い環境の中で仕事ことができました。石橋工務店の一員であったことに大変誇りを感じています。日本で過ごした日々を決して忘れることはありません。皆さん、どうかお変わりなくお過ごしください。



## 日本伝統の家造り修業



現場での仕事について、日本とドイツで違いはありましたか？

仕事の内容に大きな違いはありませんが、使用する部材が違いましたね。ドイツでは太い材木を用いていますが、日本では一つひとつの部材に細い材木が使われていました。一番の違いは勤務時間ですね。ドイツでは午後4時には一日の仕事が終わるのですが、日本では、皆さん遅くまで仕事をされていました。

## 『海外の旅大工職人さん 日本研修』取材レポート

## ■ 旅大工職人PROFILE No.02 ■

マイケル ガンダースワイラー

氏名： Michael Guntersweilerさん

国籍： スイス

年齢： 24歳

性別： 男性

<受け入れ工務店>  
山口 (株)安成工務店

今回の研修をどのようにしてお知りになりましたか？

自国の大工協会を通じて知りました。日本の建築や装飾、大工の働き方について学び、日本人々と知り合いになりたいと思い、今回の研修に参加させていただきました。

現場での仕事について、日本とスイスで違いはありましたか？

住宅の構造に違いはありましたが、ヨーロッパと日本の作業プロセスは似ている部分も多かったですね。一番の違いは、現場が非常に清潔であること。スイスでは、清掃を週1回しかしませんので本当に驚きました。

研修はいかがでしたか？

建築現場で皆がお互いに尊敬の念を持って接していたことが、とても印象的でした。海外の建築現場では意外に見逃されがちな部分です。現場で作業をするにあたり、多少の言葉の壁はありましたが、直ぐに解決できました。何よりお互いの体験を分かち合えたことが良かったですね。

現場での仕事で、印象に残ったことは何ですか？

とにかく日本の大工さんは、仕事が正確で緻密だと感じました。他にも印象に残ったことはたくさんありますが、特に私が気に入ったのは、屋根で集めた太陽の熱を利用して、床から暖かい空気を放出するというアイデアですね。省エネルギーで家を暖かく保つこのアイデアは、ヨーロッパでも助けになると思います。

今回研修を受け入れてくださった安成工務店様へメッセージをお願いします。

素敵なデザインと通気性のある家。私は安成工務店をとても好きになりました。木材がどのように加工され、断熱材がどのように作られるのかについて洞察が得られたことは私の財産です。何より安成工務店のチームの一員に迎えていただけたことをとても嬉しく思います。皆さんどうかお幸せに！

若い旅大工職人が世界を旅しながら技術を学ぶ伝統的的制度「ヴァルツ（旅職人）」。  
様々な制約<sup>※1</sup>がある中で、伝統的な衣装<sup>※2</sup>を纏い、自らの意思で世界の大工現場に身を置く彼らからは、大きな自信と誇りが溢れていました。

※1 旅職人は修行期間中（3年と1日）、家から半径50km内の立ち入り禁止、PCやスマートフォンなどの通信手段の携帯禁止という伝統的な制約の元で、世界を旅しています。

※2 伝統的な衣装について、ジャケットの6個のボタンには週6日働く、ベストのボタン8個には1日8時間働くというヴァルツのアイデンティティが込められています。



地球の会では、今後も本研修を継続して実施。文化も枠組みも違う海外の旅大工職人と日本の職人の交流を通じて、互いの国の木造建築技術やノウハウを学び合い、共に発展していくこと、さらには大工の職業意識向上を目指します。

地域と共に、世界に誇れる住文化の創造